

海外邦人安全対策情報（平成26年度第1四半期）

1. 社会・治安情勢

2012年6月のイエメン政府軍によるアル・カーイダ掃討作戦により、アル・カーイダは本拠地としていたアビヤン県の各都市から周辺諸州に逃走しました。その後も各地に潜伏するアル・カーイダ分子による政府軍・治安部隊施設等に対する自爆攻撃、軍・治安当局者の殺害及び誘拐、外国人に対する誘拐・襲撃事件等のテロ活動を継続して行っています。

アル・カーイダの関与は未確認ですが、本年1月以降に発生したの外国人誘拐・襲撃事件は以下のとおりです。

- 1月18日 イラン人外交官殺害事件（サヌア市）
- 1月31日 ドイツ人留学生誘拐事件（サヌア市）
- 2月 3日 イギリス人会社員誘拐事件（サヌア市）
- 2月12日 イギリス人教師誘拐事件（サヌア市）
- 2月22日 チェコ人医師誘拐事件（サヌア市）
- 2月28日 オーストラリア人国連専門家誘拐未遂事件（サヌア市）
- 3月17日 ロシア人医師誘拐未遂事件（マアリブ県）
- 3月25日 イタリア人国連職員誘拐事件（サヌア市）
- 4月10日 ウズベキスタン人医師誘拐事件（マアリブ県）
- 4月24日 アメリカ人誘拐未遂事件（サヌア市）
- 4月28日 ドイツ人外交官襲撃事件（サヌア市）
- 5月 5日 フランス人殺害・襲撃事件（サヌア市）
- 5月26日 インド人及びイラク人誘拐事件（マアリブ県）
- 6月 8日 米国人及びサウジ人技術者誘拐事件（マアリブ県）
- 6月21日 ロシア人女性医師誘拐未遂事件（タイズ県）

国軍は本年4月下旬から、米国の協力を受けてテロ掃討作戦を強化しました。シャブワ県及びアビヤン県など南部諸県のアル・カーイダ根拠地攻撃を中心に国内全域において、アル・カーイダ分子の検挙及び殺害を行っています。この作戦によって相当数のアル・カーイダメンバーが検挙又は殺害され、組織に打撃を与えていますが、アル・カーイダ側も各地で軍・治安当局者に対する襲撃・殺害を継続しています。報復テロへの警戒が必要となっています。外国人に対するテロは、4月28日に発生したドイツ外交官襲撃事件及び5月5日に発生したフランス人殺害・襲撃事件のように、これまでの誘拐を中心とした手口から殺害を目的としたものに変化している面もあり、当地在留の外国人に極度の緊張を与えています。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 当国における一般犯罪発生統計については、2013年版の統計資料が未発表のため、2012年版イエメン政府発表の一般犯罪発生統計に基づき、当国における凶悪犯罪を含む一般犯罪の現状については、以下のとおりです。

2012（平成24）年中に発生した殺人事件発生件数は1634件（殺人未遂を除く）（前年比17.3%増）、強盗事件発生件数は422件（前年比11.6%減）、放火事件発生件数は251件（放火未遂を除く）（前年比1.1%減）、強姦事件発生件数は135件（強姦未遂を除く）（前年比7.4%減）、誘拐事件発生件数は237件（前年比7.8%増）、窃盗（住居等侵入）事件発生件数は1653件（前年比19.4%減）、窃盗（自動車盗）事件発生件数は1484件（前年比25.5%増）となっています。殺人、誘拐などの凶悪犯罪及び自動車盗の発生件数が激増していることがわかります。また当国の特徴の一つとして、銃器が市民に広く浸透しており、これら銃器がイエメン人同士の争いに使用されるケースが多々存在することから十分な注意を要します。

(2) 平成26年4月～6月中の邦人被害にかかる事件は、退避勧告発出中であることから邦人の在留が少ないこともあり、発生していません。

過去に邦人が巻き込まれた犯罪例としては、邦人に対して親しげに話しかけ、観光案内資料の購入を持ちかけ、後になって法外なガイド料を要求したり、当国の治安当局関係者であると装って近づき、一瞬の隙を見て財物を窃取する等の事件及び女性に対する痴漢事件等が報告されています。以上の点から、誘拐事件未然防止のため、個人旅行者は、親しげにすり寄ってくる現地人には絶対に近づかない、応じないという断固たる姿勢が重要です。また他の事例として、当地の比較的安価な価格のホテルに投宿した邦人旅行者が就寝中、突然何者かが同人居室に侵入し、所持品を窃取されるという事案も発生しています。部屋の出入口ドアの施錠等についても細心の注意が必要です。なお、平成26年6月30日現在、当国全土に渡航自粛・退避勧告が発令されています。

3. テロ・爆弾事件発生状況（平成26年4月～6月）

(1) 4月1日、シャブワ県アタク市で、車（ハイラックス）に乗り覆面をした武装集団4名が、アタク警察署会計・官房担当責任者のアハマト・マルジャー中佐が家から出たところを誘拐しました。誘拐の場に居合わせた者が介入しようとしたが、武装集団が上空に発砲したため、退きました。

(2) 4月2日、アデン県タワーヒ地区にある第4軍区本部がアル・カーイダにより襲撃され、軍人7名、市民1名が死亡、その他12名が負傷しました。また、アル・カーイダのメンバー10名が死亡し、2名が逮捕されました。

(3) 4月4日ハドラマウト県カトン郡ハイナイン溪谷地区においてアル・カーイダと見られるテロ分子が車両4台に分乗し、国軍第1軍区第37機甲旅団が設置した検問所を襲撃しましたが、第37機甲旅団が反撃、撃退しました。国軍兵士5人が殉職しました。テロ分子多数が殺害されたが、残党が死傷者を連れて逃亡しました。

(4) 4月5日午前サヌア市内西部アスバヒ地区で街路樹脇に設置された爆発物が爆破し、通りかかったアリ・ムフセン大統領顧問の室長ら3名が負傷しました。

(5) 4月7日、アデン県第4軍事管区付近の軍事施設でロケット弾を輸送していたところ爆発し、軍人1名が負傷しました。

(6) 4月7日夕から8日未明にかけてハドラマウト県ムカッラ市への西口に当たるブルーム地区において、車両6台に乗り軍服姿のテロ分子が治安当局検問所を襲撃しました。兵士3人、軍属1人が殺害されました。治安当局応戦によりテロ分子は人的損害を被り、シャブワ県方面に逃走しました。

(7) 4月8日午後サヌア市内中心部 Bi'r Al Shaif 地区において、ハック党（ホーシー派友党）幹部 Ismail Ibrahim Al Wazir が車で移動中に2台の車に乗った犯罪集団から機関銃による襲撃を受けました。同幹部が負傷するとともに、警護員2名が死亡しました。

(8) 4月10日サヌア市サブイーン地区において、サウラ病院に勤務するウズベキスタン人医師が自宅から出てきたところを正体不明の武装集団に誘拐されましたが、人違いと判明し、13日解放されました。

(9) 4月11日サヌア空港近くでバニ・ハワート警察署員が武装集団に銃撃され、殺害されました。

(10) 4月12日未明サヌア市内内務省内内務大臣室近くで爆発がありました。人的被害はありませんでした。

(11) 4月12日ハドラマウト県ヤリーム市において軍の給与輸送車が襲われ、給与が奪われたほか兵1人が殺害されました。

(12) 4月12日ハドラマウト県クトン市において刑事捜査局幹部が襲撃され、どこかへ連れ去られました。

(13) 4月13日マアリブ県マアリブ市において、マアリブ県軍病院に外科医（他報道では麻酔医）として勤務するウズベキスタン人医師が両替店から出てきたところを正体不明の武装集団により誘拐されました。

(14) 4月13日ラヘジュ県フータ市において刑事捜査局員がバイクに乗った武装集団に襲撃され、死亡しました。

(15) 4月15日ベイダ県第一副知事 (Hussein Qahtan Dayan) が出勤のため自宅を出たところを4人組の武装集団に襲われ、殺害されました。

(16) 4月15日サヌア市北部ジャダル地区（サヌア空港南西）においてアルハブ郡駐留の62旅団所属の兵士がバイクに乗った2人組に殺され、武器が奪われました。

(17) 4月15日夕刻、ベイダ県リダーウ郡の特別治安組織の基地を、複数のバイクに乗った武装集団が襲撃しました。同基地警備員が反撃し、武装集団は撤退、負傷者はいませんでした。

(18) 4月16日、アビヤン県アフワル郡の警察署の塙周辺にアル・カーイダのメンバーが爆発物を設置し、朝4時ごろに爆発させました。塙が大破しましたが、死傷者はいま

せんでした。またその数分後に、同郡地方庁舎の周辺でも爆発が発生しましたが、死傷者はいませんでした。さらに政府系学校の近くにも爆発物が設置されていましたが、第11旅団の爆発物処理班により未然に処理されました。

(19) 4月16日、ハドラマウト県でアル・カーイダが同県シャヒル郡東部の第27旅団に属する検問所を襲撃しました。これにより、軍人1名が死亡、ほか複数名が負傷しました。

(20) 4月16日、ハッジヤ県ハラド郡の警察署を、部族系武装集団が逮捕されている親族の釈放を求めて襲撃しました。衝突が数時間続きましたが、軍の反撃により部族は撤退しました。

(21) 4月16日夕刻、アビヤン県ラージー公立病院会計・官房局長が車で病院へ向かう途中に武装集団に銃撃され、重傷を負いました。

(22) 4月17日、サヌア市中央銀行周辺で、武装集団と同銀行警備員との間で銃撃戦が発生しました。これに伴い、治安当局が中央銀行周辺の道路を封鎖しました。

(23) 4月17日、ハドラマウト県セイウン市のカート市場で、第1軍区本部の将校がアル・カーイダとみられる武装集団に射殺されました。

(24) 4月17日、サヌア市西部で警察将校の車に取り付けられた爆発物が発見され、爆発物処理班により未然に処理されました。

(25) 4月18日、サヌア県ナハム郡の部族長カーシム・ジャラーディが、金曜礼拝を終えてカート市場からサヌア市内の自宅へ帰るところを、車（黒のハイラックス）に乗った武装集団に銃殺されました。

(26) 4月21日、サヌア市ゴラン通りで覆面をしてバイク（ナンバーなし）に乗った男2名が、政治治安総局員2名が乗った車を機関銃で銃撃し（12発）、1名（大佐級）が死亡、1名が重傷を負いました。

(27) 4月21日、サヌア市グラフ地区でバイクに乗った2名の男が軍司令官の車を銃撃して逃走しましたが、同地区警察が2名を追い、逮捕しました。司令官は銃撃の際、車に乗っておらず無事でした。

(28) 4月21日、サヌア市アミリ警察署に向かおうとしていた同署長がアミリ交差点で武装集団に銃撃されましたが、無事でした。犯人は逃走しています。署長のボディガードが負傷しました。

(29) 4月21日、ムカッラ県デイス地区で武装集団が警察署を襲撃し、軍人1名及び市民1名が死亡し、少なくとも5名が負傷しました。武装集団の中にはアル・カーイダのメンバーが含まれ、襲撃は収監されている被疑者の解放を目的として行われました。

(30) 4月22日、マアリブ県で、車に乗ったアル・カーイダのメンバーがハリーブ郡警察署長が出勤のため自宅から出たところを誘拐しました。なお、誘拐の際に署長が抵抗したため犯人は発砲し、署長は重傷を負い、そのまま誘拐された模様です。

(31) 4月22日、サヌア市北部バニー・ハワート地区でバイクに乗った2名の男が軍

事警察訓練局長アブドルラザーク・ジャバリ及び同人のボディガードを銃殺しました。

(32) 4月21日午後、サヌア空港事務局長のボディガードが空港前のバニー・ハワート市場から出たところをバイクに乗った2人の男により銃殺されました。

(33) 4月21日、サヌア市ハサバ地区の民家で爆発物が爆発し、家屋が大破しました。

(34) 4月21日、サヌア県郊外のヒーマ郡で土地を巡る部族抗争により2名が死亡、5名が負傷しました。

(35) 4月22日、サヌア市北部バニー・ハワート地区でバイクに乗った2名の男が軍事警察訓練局長アブドルラザーク・ジャバリ及び同人のボディガードを銃撃して殺害しました。

(36) 4月23日、ベイダ県でアル・カーイダのメンバーが政治治安総局大佐及びその親戚を誘拐しました。

(37) 4月23日、サヌア県バニー・ハーリス郡で武装集団が治安機関への抗議のため、空港へ向かう道路に石を置き、タイヤを燃やすなどして道を封鎖しました。治安機関が現場に到着すると一時銃撃が発生しましたが、解散させられました。

(38) 4月24日、サヌア市内ハッダ地区にある理髪店で、米国人客が散髪していたところ、武装集団に誘拐されそうになり、その2名に拳銃を発砲し、殺害して立ち去りました。

(39) 4月25日、ジャウフ州のホーシー派リーダーであり、アール・ハムド部族長であるスルターン・ビン・トルキー・ハルサーンとその妻が、自宅から出ようとしたところを待ち伏せていたアル・カーイダと思われる武装集団によって殺害されました。

(40) 4月28日、サヌア市ハッダ地区ゼロ・ストリート（当館から約1 km）において、ドイツ大車両（防弾車）が、待ち伏せしていたとみられる車両から激しい銃撃を受け、外交官1名とその同行者が負傷しました。

(41) 5月4日、サヌア県バニー・ハーリス郡で、バイクに乗った武装集団がタイズ県の軍事警察司令官（大佐級）の自宅目がけて銃撃し、手りゅう弾を投げました。司令官は無事でしたが、犯人は逃走しました。

(42) 5月5日朝、サヌア市中央銀行裏のアンカード市場入り口で、国防省指揮局のバスを狙った爆発物が爆発しました。

(43) 5月5日、サヌア市チュニジア通りにある軍語学研修所正門付近で、同研修所の将校がバイクに乗った武装集団により射殺されました。

(44) 5月5日、サヌア市ハッダ通り沿いで、EU代表部の警備員であるフランス人が武装集団に襲撃され1名が死亡、2名が負傷しました。

(45) 5月6日、ハドラマウト県ワディ・アイファーンで、アル・カーイダとみられる武装集団が第37旅団の軍事施設をRPGや機関銃で襲撃しました。

(46) 5月6日、ベイダ県リダーウ市東部アルーカ地区で、同県次長兼GPC常任委員会メンバーのムハンマド・アフマド・ホメイカーニが車に乗っていたところを、車に乗っ

た武装集団に銃撃されました。

(47) 5月6日、マアリブ県で部族系武装集団（政治的にイスラーム党に属するハティーク族カリヤーン家）が、パイプライン警備会社での雇用を求めて、石油パイプラインを爆破しました。なお5日にも、同現場から数キロ離れた場所で、パイプラインが爆破されました。

(48) 5月7日、ラヒジュ県フータ市ダッバ地区で、3台の車に乗ったアル・カーイダとみられる武装集団が、公安所属の検問所を襲撃し、銃撃戦により軍人3名が死亡、その他複数名が負傷しました。

(49) 5月8日、サヌア市内で治安組織が、マアリブ州の部族長、ハマド・サイード・グレイブ・シャブワーニとその甥、シャーイフ・ムハンマド・サイード・グレイブ・シャブワーニを殺害しました。

(50) 5月9日サヌア市ハッダ地区マスバヒー交差点付近で、車（ハイラックス）に乗った武装集団が軍人目がけて銃撃し、軍人3名が死亡、他2名が負傷しました。

(51) 5月9日、ベイダ県リダーウ市の民家付近で爆発物が爆発し、3名（うち女性1名）が負傷しました。

(52) 5月11日、ハドラマウト県ムカッラ市で、軍事警察の建物に対する自動車爆弾による自爆攻撃で、軍人及び市民10名が死亡し、軍人11名が負傷しました（6名重傷）。

(53) 5月12日朝、部族系武装集団がマアリブ県ワディ・アビーダ郡の石油パイプラインを爆破しました。

(54) 5月12日、アビヤン県ラウダル郡で部族抗争による銃撃戦が発生し、2名が死亡、1名が負傷しました。

(55) 5月12日にサヌア市マスバヒー交差点で、テロ集団が交差点の警備に当たる軍人に対して激しい銃撃を加え、軍人がそれに反撃して銃撃戦が発生し、それによってサヌア県ハラズ郡出身の2名とサウジ人1名が死亡しました。

(56) 5月16日、マアリブ県シルワーフ郡で、初めて女性が石油パイプラインを爆破しました。

(57) 5月17日、イップ県ラドマ郡で部族抗争により7名（子供2名、女性1名を含む）が死亡し、複数名が負傷しました。

(58) 5月18日、ベイダ県ベイダ市文化センター付近で、治安機関が、大量の爆薬が入った爆発物を発見し、解体しました。

(59) 5月19日、ホデイダ県でバイクに乗った武装集団が海軍学校を銃撃し、軍人1名が負傷しました。

(60) 5月19日、ハドラマウト県 al-Shihr 郡で車に乗ったアル・カーイダとみられる武装集団がダッバ石油積出し港の警備に当たっている軍用車を銃撃し、軍人2名が死亡しました。犯人は逃走しました。

(61) 5月26日、マアリブ県で外国人教師を含むサヌア大学教育学部の教授陣6名が

誘拐された後解放されました。

(62) 5月26日、シャブワ県バイハーン郡で、第19歩兵旅団施設に対する自動車爆弾による自爆攻撃が試みられましたが、事前に自爆犯に対して銃撃を加え、建物に着く前に自動車が爆発しました。

(63) 5月27日、車に乗ったアル・カーイダのメンバーと見られる武装集団がラヒジュ県フータ市の警察署を襲撃しました。

(64) 5月27日、サヌア市軍事警察建物内にある食堂のガス置き場の下に設置された爆発物(500グラム)が発見され、爆発物処理班が未然に処理しました。

(65) 5月27日、ダーリウ県ダーリウ市で、南部運動がイエメン中央銀行支店を襲撃し、警備員との間で衝突が発生しました。さらに、南部運動と第33旅団の間で衝突が発生し、2名が死亡、5名が負傷しました。

(66) 5月28日、マアリブ県ジャウバ郡ナジュド地区の検問所で、特別治安組織が、ベイダ市からワディ・アビーダ郡へ向かう途中の、武器や爆発物を積んだ車を押収しました。

(67) 5月28日、イップ県で、武装集団がサヌアに向かう途中のシャウキー・アハマド・ハーイル・タイズ県知事の車(防弾車)を遮り、停車を拒んだところ激しい銃撃を加えました。県知事は空路でサヌアに向かっており、警備員に陸路で車を運ぶよう依頼していました。

(68) 5月28日、サヌア市のガソリンスタンド付近で爆発物が発見され、爆発物処理班により未然に処理されました。

(69) 5月31日、アデン県第120空挺旅団の施設付近で爆発物2つが爆破しました。爆発に驚いた兵士が闇雲に発砲したことにより、女性1名が負傷しました。

(70) 6月1日午後、ベイダ県 As-Sawma'ah 郡'Awain 地区で、第117歩兵旅団の軍事車両を狙った爆発物が爆発しました。車両が通り過ぎたのちに爆破したため、死傷者はいませんでした。

(71) 6月2日、ホーシー派がアムラン県アムラン市郊外にある同県中央刑務所の門を開放し、430名以上の囚人が脱獄しました。

(72) 6月2日、ホーシー派がサヌア県ハムダーン郡 Al-Gail 地区の小さな治安施設(数ヶ月前に大統領特任委員会により設置された)を襲撃し、特別治安組織の部隊長 Ma'in al-Raid 及び同部隊の軍人5名が死亡しました。

(73) 6月1日、ハドラマウト県セイユーン市の市場でバイクに乗った武装集団が P S Oの将校に向けて銃撃しようとしていたところ、将校が気づき発砲、犯人は逃走しました。

(74) 6月2日、ダーリウ県ジャリーラ地区で、南部運動の武装集団が、軍事基地視察中の第33旅団司令官アブドッラー・ダブワーン准将の車を R P Gや迫撃砲で急襲しました。司令官に同行していた将校1名、軍人1名が死亡、その他軍人複数名が負傷しました。

(75) 6月2日、アデン県シャアブ市にあるアデン大学の建物付近で爆発物が発見され、

未然に処理されました。

(76) 6月3日、サヌア県ハムダーン郡ダラーウ地区で、武装集団が国家治安庁（NSB）大佐を自宅付近で機関銃により射殺しました。

(77) 6月3日、サヌア県バニー・ハーリス郡の30November地区警察署を約15名の武装集団（一部は軍服着用）が包囲し銃撃したため、銃撃戦が発生しました。

(78) 6月7日、ハドラマウト県 al-Qatn 郡の地方裁判所近くにある第37機甲旅団の検問所を、2台の車（ハイラックス）に乗ったアル・カーイダのメンバーが襲撃し、軍人1名が死亡、3名が負傷しました。

(79) 6月7日、ベイダ県リダーウ市の市場で、バイクに乗ったアル・カーイダと思われる武装集団が第139機甲旅団の車を銃撃し、軍人1名が死亡、1名が負傷しました。

(80) 6月8日、マアリブ県スヘイル地域で、同県ジャハム族に属する部族系武装集団が、米国籍を有する石油会社の専門家を誘拐しました。

(81) 6月8日、ラヒジュ県フータ市でヌスラ・イスラム団に属するアル・カーイダのメンバーが、警察署、地方自治体、PSOの建物を襲撃し、同建物の警備に当たっていた軍人との間で銃撃戦が発生しました。これにより、軍人3名、市民1名が死亡、軍人3名が負傷、犯人1名が死亡しました。

(82) 6月8日、イップ県アル・ウダイン郡警察署長によれば、同郡でバイク2台に乗ったアル・カーイダとみられる武装集団4名が、パトロール中の警察官を急襲し、軍人2名が死亡、将校1名が負傷しました。

(83) 6月8日、ダーリウ県シナーン郡で、第33機甲旅団の軍用車を狙った爆発物が爆破しました。また、爆破に合わせ、軍人と南部運動メンバーとの間で銃撃戦が発生し、軍用車が大破、軍人2名が負傷しました。

(84) 6月11日、ハドラマウト県ムカッラ市で、アル・カーイダに属するとみられる2台に車に乗った武装集団がNSB（国家治安庁）の建物を襲撃しました。建物の警備員との間で銃撃戦が発生しましたが、警備側に死傷者はいませんでした。

(85) 6月11日、アビヤン県マフファド郡でアル・カーイダが軍事施設を襲撃し、軍との間で衝突が発生しました。軍側に死傷者はいませんでした。

(86) 6月11日、第13歩兵旅団及び第14歩兵旅団、マアリブ県の軍事警察や軍が参加した作戦で、サヌア・マアリブ間スヘイル地区で送電線を襲撃していた武装集団との間で衝突が発生し、武装集団2名が死亡、6名が負傷しました。

(87) 6月11日、マアリブ県マアリブ市カサーラ地区で、武装集団が道路の封鎖を解くことを拒んだことから、軍との間で衝突し、武装集団1名が死亡、その他3名が負傷しました。

(88) 6月11日早朝、アデン県マンスーラ郡で、数日前にマンスーラ警察署長を殺害しようとした被疑者を逮捕したことに抗議し、武装集団が軍・警察施設を襲撃しました。武装集団と軍の間で衝突が発生し、5名（うち2名軍人）が負傷しました。

(89) 13日アビヤン州マフファド郡において軍施設が自動車爆弾で襲われ、兵士1人が死亡しました。

(90) 6月14日アビヤン県マフファド郡において公道に仕掛けられた爆発物により軍車両が爆破し兵2人が死亡しました。

(91) 6月14日イップ県カーイダ郡においてバイクに乗った武装2人組が公道にいた市民に向け無差別に発砲、30代の市民1人が死亡しました。

(92) 6月15日午前アデン市シャイフ・オスマーン地区において出勤途中の軍人文民を乗せた第4軍区所属の小型バスがアル・カーイダ武装グループ3～4名に襲撃され、機関銃による発砲のため乗客のうち女性2人を含む6人が死亡、14人が負傷（うち5人は重傷）しました。犯人は逃走しています。

(93) 6月16日サヌア市ハサバ地区において国家治安庁 (NSB)職員がバイクに乗った武装グループに襲撃されましたが、職員は軽傷でした。また、同日サヌア市ベイト・ブウス地区において同地区警察署刑事捜査課長が襲撃されましたが、同僚が救出しました。

(94) 6月18日早朝ハドラマウト県ムカッラ市においてムカッラ旧港付近公道で特別治安部隊装甲車が通行中に爆発物が爆破しましたが、人的物的損害はありませんでした。

(95) 6月19日アデン市において特別治安部隊駐屯地モスクに手榴弾2つが何者かによって投げ込まれ、駐屯地に突入しようとした武装グループと駐屯地警備隊が交戦しました。死傷者はいませんでした。高校卒業試験不正を巡るクレイター地区住民と治安部隊とのもめ事が原因とみられています。

(96) 6月19日ダーリア県ダマト市リゾート施設において施設閉鎖を求める武装部族グループと施設警備隊が衝突しました。同日ダーリア県ダーリア市において「武装南部運動」分子が軍第33旅団給水車に発砲したため、交戦となり、兵士1名が死亡しました。

(97) 6月21日サヌア市内ラッカーズ地区において車いすに乗った軍大校教官（少将、国民対話会議メンバー）がモスクから出てきたところを2人組が襲撃、同教官は殺害されました。

(98) 21日タイズ県マウィヤ郡において同地政府系病院に武装した男が侵入し、同病院に勤務するロシア人女性医師（55歳）を連れ去ろうとしましたが、女性医師が抵抗し、体に数カ所の刺し傷を負いました。

(99) 6月22日ハドラマウト県ムカッラ市において政治治安総局 (PSO)幹部（大佐）がバイクに乗った武装グループから発砲を受けて殺害されました。また、同日ハドラマウト県水道局幹部がバイクに乗った武装した男から発砲を受けて殺害されました。

(100) 6月22日ラヘジュ県フータ市において刑事警察幹部がバイクに乗った武装分子から発砲を受け殺害されました。

(101) 6月23日ベイダ県ラダーウ市において第139旅団とアル・カーイダと見られる武装グループとの間で衝突があり、兵士1人が死亡しました。アル・カーイダと見られる分子3人も殺害されました。

(102) 6月23日サヌア市内のツーリストホテル (Marina Hotel)の外壁に仕掛けられた TNT 爆発物が爆発し、若者1人が負傷しました。

(103) 6月24日ハッジャ県ハッジャ市において武装集団が特別治安部隊検問所を襲撃し、兵1人が殺害されました。

(104) 6月24日サヌア県内ハイマ郡においてホデイダーサヌア道路上の遮断物を取り除こうとした警察パトロール隊が武装集団から発砲を受けましたが、負傷者は出ませんでした。

(105) 6月25日アデン県ダールサアド地区において警察署幹部 (中佐) が武装集団の発砲を受け負傷しました。

(106) 6月25日サヌア市内中心部チュニス通りにおいて政治治安総局 (PSO)幹部がバイクにのった2人組の発砲を受け殺害されました。

(107) 6月25日サヌア市内石油省裏で音響爆弾が爆破したが、負傷者等はいませんでした。

(108) 6月25日タマアリブーサヌア間の送電線がマアリブ県内で破壊活動に会い、送電線が不通となりました。

(109) 6月26日ハドラマウト県セイユーン市において武装テロ分子がセイユーン国際空港、通信公社支所、ナツメヤシ工場、第1軍区司令部等公共施設を攻撃しました。軍兵士6人、文民4人 (他報道では女性1, 小児2を含む文民9が死亡) の計10人が死亡し、ナツメヤシ工場労働者8人が負傷したものの、空港においてテロリスト4人を殺害しました。

(110) 6月26日ハドラマウト県東ダイス郡 Hafalun 地区において石油施設等を狙った襲撃を計画していたテロ細胞が検挙され、Rushdi Abdulla Bauwaidhan (通称 Abu Abdulla Al Hadrami)ほか7名が逮捕されました。

(111) 6月28日ハドラマウト県イブル地区においてアル・カーイダ分子が Batina 病院を襲撃したのに対し国軍第37旅団が反撃、兵4人が死亡しましたが、テロ分子7人を殺害しました。

(112) 6月28日ラヘジュ県フータ市においてアル・カーイダ分子が理髪店を襲撃、特別治安部隊と交戦となり、テロ分子1人が殺害されました。(了)